

総評

社会と理科が難しかったですが、その他の教科は標準～やや易しめで、全体としては標準的な出題でした。

道コンのような試験は、受験して結果を見ただけでは半分の価値しかありません。自分のミス傾向や弱点に気づき、間違えた問題の直しをして、克服してこそ受けた価値があるのです。また、正解した問題であっても、解説を読んで自分のやり方とはちがう解き方や考え方に気付くこともあります。新たな考え方を身につければ、得意分野をさらに伸ばすこともできます。

入試では、不注意によるミスをどれだけ減らし、得意分野でどれだけ得点を積み上げられるかが重要なポイントになります。今回の問題を存分に活用して、得点力アップに役立ててください。

国語

標準的な難易度の出題となりました。

㊦の漢字の書きは、「功績」が難しかったようです。「績」と「積」の使い分けを確認しましょう。問三の品詞の問題も、しっかり復習しましょう。㊦は、問五の得点率が低くなりました。表からどのようなことについて問われているのかを正確に読み取る必要があったためだと考えられます。問題集などで表を使った問題に取り組み、そうした出題形式に慣れておくとよいでしょう。㊦は、問四の得点率が低くなりました。問四のような文章全体の内容を把握していなければ解けない問題は入試でも出題されます。問題集などで古典の問題を解いたあとは、日本語訳も確認するようにしましょう。㊦は、比較的よくできていました。問三の「六十字以上」という字数の条件は必ず見落とさないようにしましょう。

数学

標準的な難易度の出題でした。①の小問集合や②の式の計算はおおむね解答出来ていましたが、③や⑤の記述問題を中心に得点率が低くなりました。

②は規則性を文字の式で表す問題です。同様の出題パターンに慣れ、様々な問題に臨機応変に対応できるように練習しましょう。③は身の回りの事象を関数で表す問題でした。問1で問われたように、グラフの交点や傾きが何を示しているのかを整理することで、後半の問いにもスムーズに取り組むことができるはずですが。④問3(1)は、改めて解説を見返し、作図の意味を理解しましょう。⑤は、近年の入試でも頻出の箱ひげ図からの出題でした。問3は、やみくもに解答を書き始めるのではなく、問われている内容を整理し、図表内のデータを根拠として用いて、論理的に説明しましょう。

社会

難しい出題でした。

地理分野は、中難度の問題が多くなりました。①の問1(4)ではツンドラを「シベリア」や「タイガ」と書いた答案が多く見られました。気候に関する用語を忘れてしまった人は復習しておきましょう。③問2の資料問題の得点率も低くなりました。資料問題では、最も大きい数値や最も小さい数値に着目しましょう。

歴史分野は、②問1の年代並べかえ問題、②問2の資料に関する問題の得点率が低くなりました。年代に関する問題は、入試ではよく出題されるので、教科書や参考書などの年表を利用して歴史の流れをつかむようにしましょう。また、資料問題もよく出題されるので、教科書に出ている資料については、出された時期、背景を確認しておきましょう。

理科

難しい出題でした。

①は基本的な内容の出題です。間違えた問題や、迷った問題はしっかりと復習して、基礎固めをしておきましょう。②の動物のはたらきは、問1(2)と問3(1)の正答率が低かったものの、他はよくできていました。実験・観察の文章が長めでしたがしっかりと読み取れた人が多かったようです。③の気体は、問1(1)を間違えた人が多かったようです。非常に大切な事項ですので、教科書などを読み直してしっかりと復習してください。④の気象は、正答率が低くなりませんでした。表やグラフの結果を読み取り、しっかりと考察できた人が多かったようです。⑤は全体に難しかったようです。基本的な内容も含まれていますので、しっかりと復習しておきましょう。

英語

やや易しい出題となりました。

①のリスニングは比較的よくできていました。問4では英文の内容を正確に聞き取り、適切に表現する力が求められました。英文の指示を聞き逃さないようメモをしたり、自分の書いた英文を見直したりするなど、集中して問題に取り組みましょう。

②は基本的な文法項目の出題でした。確実に得点したいところです。③Bのスピーチ文の長文問題は全体的に得点率が低くなりました。③Cの会話文の長文問題は空欄補充の問題で得点率が低くなりました。

④の英作文で減点となった場合は、冠詞、三単現、複数形などの不備がないかを確認しましょう。英文の内容はとても重要ですが、基本的なスペルミスや文法ミスがないように注意しましょう。